



湯川中だより

NO. 11

発行日 令和3年11月12日(金)

発行者 校長 宮城 裕樹

2学期は「主体性」～ 自ら学ぶ、自ら働く ～

意志あるところに道は開ける

～ Where there is a will, there is a way ～

よく言われることですが、夢や目標は叶うものではなく、叶えるものです。

その辺をぶらぶら歩いていたら、いつの間にか夢や目標に到達することはありません。

インターネットやスマートフォンの普及により、情報へのアクセスは簡単になりましたが、自分の夢や目標は、クリックしただけでは絶対手に入りません。

ろくに勉強しないで成績が上がる方法などありませんし、練習しないでスポーツで成功する秘訣などもあるはずがありません。

何事であれ、そう簡単にはいかないものです。

挑戦していれば、誰しも必ず壁や困難にぶつかります。

それを乗り越えていくためには、一步一步挑み続けるしかありません。時間もかかります。そして、もちろん楽ではありませんし、苦しいに決まっています。自分の甘さに負けたらそれまでです。「私は絶対にやり遂げる」と決意し、自分から勉強し、練習に取り組んだ先にしか、夢や目標の実現はないのです。しかし、壁や困難を乗り越えて、自分の夢や目標が実現したときの喜びや感動は、計り知れない大きなものであることも間違いありません。

大成功に終わった紫陽祭。その要因は、全校生の「紫陽祭を絶対成功させる」という強い思い、そして、それを形にするために、一人ひとりがやるべきことを最後までやり抜いたことだと思います。全校生が高い山を登り切ったところに、一人ひとりの成長や学校全体の一体感を感じることができ、とても嬉しく思います。

中心となってみんなを引っ張ってくれた文化祭実行委員や新旧生徒会役員のみなさんの活躍、とても頼もしく感じました。企画や運営には、人に大切な『かきくけこ』(感謝・気配り・工夫・献身・行動)が込められており、大変立派でした。

感染症対策にご協力をいただきながら、たくさんの保護者の方々に来校をいただき、子供たちの発表や作品をご覧いただきました。皆様の温かい声援や拍手が、子供たちの大きな励みになり、明日へと挑む新たな活力になると確信しています。

ありがとうございました。



令和3年度全校合唱「マイ バラード」

※ 中学校の学校行事では、次の3つの力や態度等を育てることを目指しています。

- ① 集団への所属感や連帯感
- ② 規律ある行動の仕方や習慣
- ③ 人間関係や集団をよりよくする力

これからも、学校生活を通して『協力してよりよい湯川中を築く』ことができるよう、学校が一丸となって取り組んでくれることを願っています。

続きは裏面へ

「紫陽祭2021 開祭宣言」より ～ 大切にしたい、感動的なメッセージでした ～



2021年紫陽祭は、「挑 ～新たなる一歩～」をテーマにスタートした。今、世の中では、いじめ、自殺、SNS問題、ネット犯罪、そして、新型コロナウイルスの流行…そんな暗いニュースばかり目にする。

新しい生活様式で、今までの当たり前は、当たり前ではなくなった。そんな世の中で私達ができることは何もないのか。色々なことを諦

めなければならないのか。そんなことはない。私達だって夢を実現することができるはずだ。

一度や二度の失敗を恐れることはない。そこには、信頼できる仲間がいる。一緒に頑張る仲間がいる。応援してくれる家族がいる。支えてくれる先生がいる。辛い時にこそ、人を信じる心を持ち続けたい。私達は、どんな困難に出会っても、それに立ち向かっていく自分達でありたい。そんな気持ちがあれば、きっと乗り越えられるはず。

さあ、みんなで歩き出そう。みんなの想いを繋いでいこう。私達の未来に向かって…。

この紫陽祭2021は、明るい未来への第一歩。仲間、家族、地域を繋ぎ、湯中生一人ひとりが挑み、新たな一歩を踏み出していく、そんな気持ちで今日まで頑張ってきた。だから、新しい生活様式の中でも、紫陽祭を、記憶に残るものにしたい。感動的な紫陽祭にしたい。一生の宝物にしたい。



「紫陽祭2021 閉祭宣言」より ～ 実行委員長古川さんのメッセージです ～

紫陽祭を無事に終えることができ、大変良かったです。

文化の日には「自由と平和を愛し、文化をすすめる」という意味があるそうです。今日は、習字や水彩画、合唱などを披露し、文化に親しむ1日となりました。

今年も恒例のビッグアート制作を行いました。ビッグアートは、近くで見るとどうなっているのか分からないけれど、遠くから見たら意味のあることだったんだと気づきま

す。みんなで力を合わせると、大きなことも成し遂げられるということです。紫陽祭の準備も、練習も、本番も、全部ひとりで行ったわけではありません。当然だと思うようですが、一人ひとりが得意なことを生かしてみんなで創り上げることで、全体の素晴らしさを感じると同時に、個々の働きはとても大切だったと感じると思います。だからこそ、今回のテーマである「挑(いどむ)」ことは、とても大切なことです。挑戦しなければ、何も始まりません。失敗を恐れず「挑んだ」ことも、今回の紫陽祭の成功のもだったと思います。

最後に、みなさんが合唱をした時、必ず指揮者、伴奏者がいました。ステージに立った時、裏で音響を確認してくれた人がいたはず。スポットライトを当ててくれた人もいました。そして、先陣を切って準備を進めてくれた実行委員のみなさん、総括して全体をまとめてくださった先生方、協力してくれた家族の方、小林さんをはじめ稲刈りからお世話になった方々、太鼓の大関さんなど、開祭式でも言いましたが、関わる全ての人で創り上げてきたものです。このような最高の形で終えることができたことは、実行委員長としてとても嬉しいです。文化の日でなくても、自由と平和を愛し、文化をすすめ、一人ひとりが挑み、新たなる一歩を踏み出してください。

紫陽祭に関わってくださった全ての皆様、本当にありがとうございました。

湯川中ホームページもご覧ください

ホームページでは、学校生活の様子等を紹介しています。

右のQRコードを読み取ってご覧いただけます。

(<https://yugawa.fcs.ed.jp>からもアクセスできます)

